

# 平成24年度 自己評価・学校関係者評価 報告

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号 112

## I 自己評価

1 学校教育目標	一人一人の子どもの発達や障がいに応じて、もっとも必要で適切な教育活動の創造に努めるとともに、すべての子どもたちが主体的に力一杯伸びていくため、きめ細やかな指導や必要な支援の充実を目指す。	
2 評価する領域・分野	進路支援	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	昨年度「10. 進路の連絡や情報提供を適切に行っている」の評価は低く、教育方針や指導の内容も含めて、保護者へわかりやすく伝えていく必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<b>2 重点</b> (1) 事業所内作業学習（にこジョブ）の啓発を図る。 (2) 就労に向けての進路開拓に努める。 (3) 作業学習について、製品の開発、向上に努める。 (4) 関係機関とのネットワークの連携を図る。 (5) 小学部からの組織的、系統的なキャリア教育を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路支援部	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) にこジョブの事業所数の拡大 (2) 就労先の情報収集、提供 (3) 作業製品の開発と向上 (4) 関係機関との連携 (5) 組織的、系統的なキャリア教育の検討	(1) 受入事業所の拡大 (2) 福祉就労・一般事業所への就労 (3) オリジナル作業製品の開発 (4) 関係機関への働きかけ (5) 日常生活、生活単元学習、作業学習での取組	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) にこジョブ先の開拓 (2) 受入事業所との面談、生徒について (3) 支援会議、にこジョブ会議の実施 (4) 保護者への進路ガイダンス (5) キャリア教育計画の位置づけ	(1) 受入事業所の数 (2) オリジナル作業製品 (3) 関係機関への働きかけ (4) 各学部の進路ガイダンス (5) 日常生活、生単、作業学習での取組	A B B B B
11 成果・課題	・3年生の一般就労先もほぼ決まりつつある。福祉就労については、移行支援会議を開催して、福祉課福祉事業所への就労手続きを行っている。 ・事業所内作業学習は、協力事業所が増え、就労体験により生徒が働くという自信や意欲が向上してきた。 ・今年度のアンケート票集計では、「11. 進路の連絡や情報提供」の評価は<64→80>と高くなり、「28. 諸機関との連携」の評価も<46→71>と高くなった。昨年度は開校1年目ということもあり、今年度の取組が評価されたと考える。 ・業務分担についての検討が必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・就労に向けての取組 ・事業との関係作り ・校内作業・現場実習ホームページ作り ・オリジナル作業製品の検討 ・業務役割分担		

総合評価  
B

## II 学校関係者評価

- ・企業側としては、企業体験が直接就職として考えられると困るが、にこジョブのような事業所内学習としてであれば、複数の学校が来られても大丈夫である。
- ・卒業後も学校からの支援は必要である。先生の一言で立ち直るケースもあり、未永い支援を必要としている場合もある。